

瓢箪町公民館報

ひょうたん

創刊号

金沢市瓢箪町公民館

館長 川崎 政雄

金沢市彦三町2丁目10番5号  
電話 21-1476番

創刊に当って

公民館長 川崎 政雄



人間の心のなかに何かの足りない空虚感を味わわれてはいないでしょうか。物質文明に追い回されて人間同志の疎外感、空しさがいまの世のなかに潜んでいないでしょうか。

明るく楽しい心豊かな生活は、万人が心の底から望むものです。それでは、そうした生活は、どうしたら得られるでしょうか。あり余る物資そして異常な程までに発達した物質文明のいまの世の中に、確かに十年前二十年前の人々が享受できなかった喜びがありましよう。殊に機械文明の進歩は、宇宙への道を開いて、大きな楽しみを生みだしてくれました。だが、その喜びや楽しみにもかかわらず

人間の心のなかに何かも足りない空虚感を味わわれてはいないでしょうか。物質文明に追い回されて人間同志の疎外感、空しさがいまの世のなかに潜んでいないでしょうか。人々の心に真実の充実感を与えてくれ、人間結合の歡喜を与えてくれるのが公民館活動です。心と心をつなぐ楽しい校下づくりが公民館の使命です。公民館活動への参加によって明るい生活は達成できるのです。その公民館活動の重要なことをお知らせするのが館報です。今後の発行回数は、必ずしも多くを望み得ませんが、ご熟読を心からお願いして創刊の言葉とさせていただきます。

創刊に寄せて

町会連合会副会長 山崎 喜作

この度公民館の館報が創刊されると聞き、心から喜びに堪えません。公民館は校下のセンターとして校下民の福祉安寧と地域の繁栄に役立つ施設であります。住民の誰もが気軽に利用し教養の向上と健康の増進を計り、以て生活文化の振興に寄与する機関であらねばなりません。従って公民館活動も幅広く全校下民に呼びかけて社会教育活動の活発な展開を期し度いものと願って居ります。この意味に於て館報の発行は公民館活動の実態を知り、進んで協力を求める広報機関として真に有意義であり

永く続けて頂き度いものと存じます。当公民館に於ては先般来一段の飛躍を期して副館長の新任、各部制の新設を、若い方々の感じる協力態勢に依ってこれからの活躍に期待する処大なるものがあり、各種団体との連絡を密にして所期の目的に向って邁進される事を願って止みません。私共も精々御協力申上げて、共に手を携えて社会福祉の増進に寄与致し度いものと念願致して居ります。創刊に当り所懐を述べて御祝いの言葉と致します。

青少年の育成向上を望む

瓢箪町校下 町会連合会理事 畑中 耕次

公民館活動は、校下地域の開発発展と民性の向上発展に大きな貢献をしていることは、今更申すまでもありません。就中青少年の育成向上のため、夫、校下青年連盟及少年連盟の組織の許に積極的の活動して居りますが、其の成果については未だ十分ではないと信じます。

公民館活動は、校下地域の開発発展と民性の向上発展に大きな貢献をしていることは、今更申すまでもありません。就中青少年の育成向上のため、夫、校下青年連盟及少年連盟の組織の許に積極的の活動して居りますが、其の成果については未だ十分ではないと信じます。申すまでもなく、戦後日本の民

主化と、経済・社会・文化など急速なる変化発展に伴い、自由と責任・権利と義務の精神的意義の誤解に依り、之れが直接の行動となって現われる一ツとして余りにも多い犯罪の激増、然かも之れが遂次悪質化し集団化している現況は決して等閑に附することの出来ない問題であると信じます。激動する世界の中にある日本、

アジアにおける日本の役割など外に大きな問題を持ち、国内においても大きな課題を抱え、将来の日本の繁栄の岐路に立つ日本の現状は、日本の国民がひとしく憂慮するところであると信じます。中でも今日特に重要な位置を占める者は青少年であり、青少年こそ世代を受け継ぎ悪害を断ち切り、社会の向上に力を尽す大きい使命を課せられていることを、忘れてはならないと思います。私は今日の青少年の現状を観察するにつけ、明治維新の大業の成就是、あの若き青年烈士の燃ゆるが如き愛国心の魂が、直接の行動となって達成されたことを想起するものであります。

私は此際校下の皆様が更に公民館活動に深い御理解を御願ひし、特に青少年の育成向上に一段の御協力と御支援を望んでやみません。茲に創刊号の発行に当り、一言所信を申上げて祝辞と致します。

瓢箪町公民館 運営審議委員

- 太田 兵吉
- 松平 利吉
- 高木外喜男
- 三ツ田礼子
- 竹内 貞二
- 岩本 清
- 南出千一郎
- 堀部 泰資
- 安宅 進



## 昭和43年度公民館行事予定表

| 区分<br>月別         | 成 人                  |                   | 青 少 年                                 | 体 育 厚 生   | 視 聴 覚 | その他集会行事                    |
|------------------|----------------------|-------------------|---------------------------------------|---|-------|----------------------------|
|                  | 一 般                  | 婦 人               |                                       |   |       |                            |
| 4                | 事業計画他                | 事業計画他             | 事業計画他                                 | 事業計画他   |       | 運営審議会<br>公民館委員会            |
| 5                | 勤労者バレー               | 婦人学級<br>1回        | 指導者研修<br>28日(火)                       | 勤労者バレー<br>ミックスバレー                                   |       | 公民館委員会                     |
| 6                | 政治講座<br>(話し合い)       | 婦人学級<br>2回        |                                       | ブロックバレー<br>交歓会                                      |       |                            |
| 7                | 成人病検診                | 婦人学級<br>1回        | 指導者研修<br>27日, 28日                     | 婦人バレー大会<br>ハイキング<br>市民体育大会                          |       | 運営審議会                      |
| 8                | 下旬<br>交通教室<br>(親子見学) | 乳幼児検診<br>民謡踊大会    | 下旬<br>交通教室                            | ソフト・ドッジ<br>大会<br>民謡大会                               |       | 公民館委員会                     |
| 9                | 体力テスト<br>敬老会         | 婦人学級<br>県政教室      |                                       |   | 映 画 会 | 運営審議会                      |
| 10               |                      | 婦人学級              |                                       | 社会体育大会<br>(10.6)<br>市民体育大会<br>参加                    |       |                            |
| 11               | 政治講座<br>(話し合い)       | 指導者研修             | 各町対抗バレー<br>(中旬)                       | 各町対抗バレー   |       | 運営審議会                      |
| 12               |                      |                   |                                       |   | 映 画 会 | 公民館委員会                     |
| 1                |                      |                   |                                       | 少連旗源平<br>大会   |       | 運営審議会<br>成人式               |
| 2                |                      |                   | 指導者研修                                 | 卓球大会<br>青年バスケット<br>交歓会                              | 映 画 会 | 公民館委員会                     |
| 3                |                      |                   |                                       |   |       | 運営審議会                      |
| 月<br>例<br>行<br>事 |                      | 読 書<br>生 花<br>料 理 | 青少協委員会<br>" 推 進 "<br>定 例 会<br>(奇数月2日) | 歩こう会<br>(毎月第1日曜)<br>バレー・<br>バスケット<br>卓 球<br>フォークダンス |       | 各種団体会議<br>公民館部会<br>公民館総合部会 |

昭和43年度

校下各種団体長名

- 育友会 川崎 政雄
- 防犯交通委員会 松平 利吉
- 身体障害者 田村 勇
- 少年連盟 竹内 貞二
- 消防分団 高木外喜男
- 青年連盟 近藤喜三司
- 青少年問題協議会 川崎 政雄
- 鶴亀会 浦島政右エ門
- 母子福祉会 吉田 くみ
- 民生児童委員会 本多 常男
- 公民館 川崎 政雄
- 遺族会 村田 義岡
- 社会福祉協議会 川崎 政雄
- 町会連合会 松平 利吉
- 婦人会 三ツ田礼子
- 保護司会 岩本 清

政治講座

市長をかこんで

八月二十日午後七時半より、連日何かとお忙しい徳田金沢市長を囲んで市政批判や校下民の要望など、この機会に見聞しようと多くの参加者を得て市政座談会を開催した。

公民館長川崎政雄氏の司会で先づ市長から将来についてのビジョンを承り、夫々の分野から要望質問を提供し、なごやかな中にも厳しい市政の批判があった。特に下記事項については一応の説明があ

り後日、文書にて詳細なご返事をいただくことになりました。また、市政に関心深いはずの町会連合会からの提案が皆無なばかりか消極的な態度は画電点晴を欠く感があった。(田中記)

市長と共に語る会 の提案

一、浅野川の美化清掃につき市としての美化計画があるか。

発言者 村田 義岡

二、野犬・蓄犬の衛生的な管理や危害防止についての取締がどのようになっているか。

発言者 三ツ田礼子

三、道路を広く使う運動を提唱したい。(防犯交通委員会より)

発言者 高木外喜男

四、小学校修理の問題について。併て図書費についても質問したい。(育友会より)

発言者 岩本 清

五、身体障害者の生活必需品の割引購入の問題について。(身体障害者福祉協議会より)

発言者 田村 勇

六、校下発展のための調査研究機関を設けては如何?

発言者 浦島政右エ門

七、児童遊園の修理および遊具の増設について。(青少協より)

発言者 吉川 実

八、市役所内の事務連絡煩さの問題について。(一般より)

成人教育

読書サークル

あゆみ読書会

野坂 晋子

校下婦人部のグループに『あゆみ』読書会と名づけられて加わったのは、昭和三十八年十一月。これは初代田中さん他、有志の方の熱心な読書活動と、当時校下婦人会長であった長沖さんの積極的な推進によるものでした。以後婦人部からの助成金は読書会の発展に大きな原動力となり、これまで県立図書館から借り受け廻覧していた十冊文庫ではあきたらなく翌三十九年度には念願の読書講座を設け、初代講師には、室生犀星の研究家として有名な新保さんをお招きしました。つい四十年、初めて会としての本を購入、自分の手で良書を選び喜びを味わうことが

できました。会員は既に三十名を超え盛況で、親睦を図りながら自然美の観賞するため県政バスを利用しました。そして四十一年度、会員の一層の向上を願って文集編集兼ガリ切りは、才智に長けた岩井さんによつて見事に突破、第一号の発刊をみたのです。扉には先ず長沖さんのお言葉、田中さんの『五年間の歩み』続いて時事随筆、読後感、紀行文あり、何れ劣らぬ麗筆は私どもの文集として心に灯を掲げたもののようにした。続いて四十二年度は、公民館主事さんのご助力による市からの助成金は更に拍車をかけたようので、今年度は既に初総会に続き、高橋美術館長の案内による日見学、木田講師から『泉鏡花』引続き、藤田金大教授による『与謝野晶子』等々と皆様のご期待に副うよう念じております。

あなたの声を!

広く社会の中に生活する一人一人が市なり町の構成員としての視野と見聞を育て反省と主張をもつためには、それなりの共通の広場が欲しいものである。それが公民館であると私は考えたい。校下公民館のあり方については色々な意見はあるが地みちな校下庶民の社会的な主張と反省の場とすることには誰も異存はないはずである。然し毎日の雑事に追われ目まぐるしい環境の中にある私たちにとってはその社会的な場へ直接出向いて話したり聞いたりする機会がとばしいので、行動を起さなくとも自由に意見を述べ視野を広げることのできる公民館を創ることとしたのである。

校下の人達はどう考え環境がどう発展していくかを知りつ、自分の立場と意志を正しく位置づけて行くために大いにご利用いたゞければ幸甚である。

要するに社会と自己とをつなぐベルト、それが公民館報。ひょうたん。なのである。

あなたの新聞です! ご意見やご要望を大いに事務局までご投稿下さい。

公民館俳句

ひきご句会

菖蒲葉を珠数に合掌句碑の建つ  
郭公を遠くに友の墓洗う  
暮婦強く生るたつきの麦わら帽  
炎天や糧運ぶ蟻の魂還まし  
花ざくろ揺れいて静かなる授業  
よし切の昂ぶいて鳴く堰の音  
おのが描く水輪に生きて水馬  
葉校の雨図書館の昼深し

川崎 政雄  
田中 雨人  
沢井 双舟  
東 秋郎  
徳田 水斗  
多田 洗石  
出島 晴乃  
島田 弘子